

◇戸澤 勉君

○議長（高橋 猛君） それでは、最初に、14番戸澤 勉君の一般質問を許可いたします。戸澤 勉君、登壇願います。

（14番 戸澤 勉君 登壇）

○14番（戸澤 勉君） おはようございます。14番戸澤です。

年々進む少子高齢化は深刻な行政課題であり、そのため数々の施策で対処しておりますが、その進行はとどまることを知りません。先般発表された秋田県内の高齢化率は、昨年10月1日時点で全国一の30.7%となりました。また、2040年の美郷町の推定人口は、2010年に比較して38%減の約1万3,000人と示されております。厳しい状況下ではありますが、より積極的に次世代に住みよい町、住み続けたいと思えるまちづくりを継承していかなければならないと思います。住みよいまちづくりは、地域と一体となって推し進めるべきと思います。

これまで私の地元の行政区には自治会組織がありませんでした。議員活動を通してほかの自治会の活発な活動状況を知り、地元の現状では将来に対応し切れないのではと思い悩んでおりました。特に千屋地区は農協の部落組合が活発だったので自治会不要論が年配者にあり、機運はあっても立ち上げられずにおりました。意を決し、私が呼びかけ人になり、協議会を立ち上げ、準備委員会、事務作業チームを経て10回の協議を重ね、設立に至ることができました。目下、すばらしいリーダーのもと、活発な自治会活動を展開しております。

地元の千北行政区は68戸ですが、部落組合が2つあり、そのどちらにも会館がつくられています。私の地域の会館は、平成元年に、25世帯で1世帯当たりの負担金8万円で建てかえられました。現在、もう一つの会館の傷みがひどく、建てかえの時期が迫り、これを機会に地域の将来を見据えて1つの会館にまとめる方向で話し合っております。

議会では、住民との懇談会で町内の会館に出向いておりますが、総じて千畑地区の会館の整備が進んでおり、エアコン完備で、地域の方は猛暑の中での会合も苦にならなかったと話していました。千畑地区では、平成16年に、それまでの財産区基金1億円超を各行政区に配分し、主に会館の整備に充て、当時の建設補助率も50%でしたので、急速に整備が進んだものと思われま

す。前述のように少子高齢化の進展もあり、他地区の会館の整備がなかなか難しいと思われま

す。町内の会館整備の実情把握をアンケート等で調査し、整備時の世帯負担の軽減を図るためにも、町の補助率のかさ上げにより快適で集いやすい会館づくりを進めていただきたいと思います、町長のお考えをお伺いいたします。

次に、教育長にお伺いします。元東京大学総長佐々木 毅氏の顕彰をということで、佐々木

毅氏は、皆様既にご承知のとおり、ことしの3月末をもって学習院大学法学部教授を定年に伴い退任されました。

私の隣家の出身で、毅さんは5歳年上でした。私が小学校に入学したころに、毅さんが自分の教室に連れていってくれたことがあり、6年生の大きな姿にびっくりしたことが思い出されます。魚とりの好きな毅さんでしたが、中学校の途中で秋田市内に転校されました。秋田高校生時代は帰郷時にキャッチボールの相手をさせられました。当時は実力テストの成績が新聞に発表され、東北地方で上位に入っていたので、すごい人だなと思っていました。その後、東京大学法学部に入学し、卒業後、助手を経て、27歳で助教授、36歳で教授、56歳で法学部長、59歳で学長に選ばれ、4年間総長を務めてから、学習院大学に勤務されました。

毅氏の功績は山のごとくであります。郷土が生んだ偉人として、退任された機会に後世に継承すべき方策を検討のときと考え、お伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。初めに、町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの戸澤議員のご質問にお答えいたします。

自治会館改築に助成金の増額をについてですが、議員の住みよいまちづくりは地域と一体となって推し進めるべきとの御指摘は、そのとおりであると私も認識しております。そのため、その推進施策の一つとして、行政区が活動拠点とする集会施設を整備する取り組みに対しては、町として補助制度をつくり、これまで地域コミュニティ活動の活発化を支援してきていることは、議員もご存じのとおりです。

この補助制度については、平成18年5月から昨年度末までに延べ32行政区で活用があり、また、今年度も既に2行政区からの補助金交付申請書を受理しているところです。

さて、議員ご質問の補助率のかさ上げについてですが、一義的には、これまで活用してきた行政区並びに現在補助申請している行政区との公平性や補助率変更の目的などを鑑みますと、かなり整理を要する側面を持っているものと存じます。

しかし、一方で、行政区等の集会施設の老朽化も散見される現状を踏まえるとともに、昨今の防災意識の高揚に伴う防災体制強化の必要性を踏まえますと、最も身近な避難施設になり得る行政区等の集会施設は、今後さらに機能充実が求められることも考えられます。

現在のところ、こうした防災機能の充実を目的とした改修等については特例扱いとなっておりますので、今後、単に集会施設としての改修目的だけではなく、自主防災組織の活動促進の観点も含め、防災拠点として機能充実を図るなどの場合は、補助率や補助限度額のかさ上げを検討

するなど、従前の補助制度との整合を図って、公平性に留意しながら、新たな観点を加味した補助のあり方を検討してまいりたいと存じます。

なお、こうした観点での補助率かさ上げ等については、既に水環境保全に向けてトイレの水洗化などで実施しているところです。

いずれ議員のご指摘の実情把握並びに意向把握のアンケート調査を実施し、快適で集いやすく、かつ安全安心な集会施設に対する支援のありようについて今後検討してまいりますので、どうかご理解をお願いいたします。以上です。

○議長（高橋 猛君） 次に、教育長、登壇願います。

（教育長 後松順之助君 登壇）

○教育長（後松順之助君） 次に、元東大総長佐々木 毅氏の顕彰についてですが、最高学府の総長を歴任され、専門分野である西洋政治思想史はもとより、現代日本の政治についての執筆を初め、論壇で盛んに活躍されておられる佐々木 毅先生は、郷土の誇る偉大な日本の政治学者です。

町では合併前から数々のご講演をいただいておりますが、平成22年には美郷大使への就任もご快諾いただき、美郷町の魅力発信やまちづくりにご提言などをいただいているところであります。これまでのご講演の中での先生のコメントに「継続的に努力することの大切さを学生の皆さんに伝えることが私の使命であると感じています」とありますように、先生のご意思は行政にかかわる私どもにとっても深く感銘いたすものであると同時に、後世に継承していくべき責務を感じているところです。

ご功績の展示の具体についてですが、空き校舎の活用として進めている民俗資料等の展示収蔵施設の整備計画においては、歴史部門にて郷土の先覚者の方々をご紹介するコーナーを設けたいと考えているところであり、佐々木先生の足跡についてもぜひ取り組みたく、その内容等についてご相談しているところであります。

なお、この6月29日から9月27日までの期間、先生のご出身校であります秋田県立秋田高等学校において、東京大学在任時代等を中心とした写真、記念品、色紙等の展示が予定されておりますので、当町でも同校と連携を深め、今後の展示の参考にさせていただきたいと考えております。以上であります。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで14番戸澤 勉君の一般質問を終わります。